

平成 30 年度

生活科・総合的学習教育セミナー実施報告書

保育・学習活動のつながりと教師の役割を考える ～園児と児童の交流活動を手がかりにして～

日本生活科・総合的学習教育学会大阪支部では、平成 31 年 1 月 26 日（土）大阪教育大学天王寺キャンパスにおいて「保育・学習活動のつながりと教師の役割を考える ～園児と児童の交流活動を手がかりにして～」をテーマとして生活科・総合的学習教育セミナーを開催した。大阪府・兵庫県・岐阜県から 81 名の先生方が参加した。

新しい学習指導要領では、あらためて幼小連携の重要性を指摘している。そこで、平成 30 年度の教育セミナーでは、幼保小連携をテーマにした二つの実践発表をもとに、活動のつながりや教師の役割についてグループでの意見交流、全体交流をして学び合った。

さらに、国研「スタートカリキュラムスタートブック」の作成に参画し、様々な幼小連携に関わってこられた講師の大山夏生先生からも、園児と児童の交流実践も提示しながら具体的に解説いただいた。幼小連携はスタートカリキュラムに関わる学年だけでなく、幼稚園・保育所と小学校全体の連携と捉え、今後も継続して効果的な幼小連携のあり方を探り、構築していくことが大切であると力説された。

参加した先生方と有意義な時間を共有することができ、研修を深め合うことができた。

教育セミナーの最後に、日本生活科・総合的学習教育学会大阪支部の総会を行った。



生活科・総合的学習教育セミナーの様子

【 実践発表 】

① 保育（年長）活動と生活科の学習活動をつなぐ

発表園 大阪市立鶴橋幼稚園

発表者 大阪市立鶴橋小学校教諭 東本 佳奈先生 村島 佐知子先生

鶴橋幼稚園、鶴橋小学校が幼小交流している 1 年間の様子を月ごとに写真で紹介した。1 年生だけでなく、全学年に交流の機会があり、学校全体で取り組んでいる様子を強調した。そして、これらの活動は 9 年間継続してきているが、事前の打ち合わせで互いのねらいを明確にしたり、交流後は見直しの話し合いをしたり、先生同士の交流を充実させながら改善してきた。こうした交流を毎年引き継ぐことが、発達段階に応じた学びにつながっていることを発表した。

平成30年度 幼小交流年間計画

平成30年度 幼小交流年間計画					
大阪市立鶴橋幼稚園・大阪市立鶴橋小学校					
時期	幼稚園	幼稚園のねらい	活動	小学校	小学校のねらい
1学期	5歳児 4歳児	・広い校庭に親しんで遊ぶ。 ・施設を見学し学校を知る。	○校内探検 (手をつないで並んで歩く、階段の昇降を経験する)	小学校	
	5歳児 4歳児	(団体演技を見せてもらう) (一緒に遊ばせてもらう) ・小学生の様子に関心をもち、いろいろな運動遊びに興味をもって見る	◎運動会のリハーサル	全学年	・運動会への意欲を高める。 ・必要に応じて声かけをするなど優しい気持ちで接する。
	5歳児 4歳児	・小学生に憧れの気持ちをもつ。 ・一緒に遊ぶ楽しさや、優しくしてもらう心地よさを味わう。	◎園庭遊び	1年生	・お互いに気持ちよく過ごせるように、声をかけ活動する。
	5歳児	・6年生に親しみやあこがれの気持ちをもつ。	◎小学校のプールで遊ぶ。	6年生	・6年生の自覚をもって相手の気持ちを考えながら、責任感をもって活動する。
	5歳児	・自分たちの作ったものをプレゼントする楽しさを味わう。	◎班割り	1年生 2年生	・自分たちのために作ってくれたことに感謝の気持ちをもつ。
	5歳児	・広いプールで存分に遊ぶ。 ・幼稚園のプールと一緒に遊び、親しみをもつ。 ・1年生の泳ぎに刺激や憧れを感じる。	◎幼稚園のプールで遊ぶ。(7月)	1年生	・まわりの様子を見て、共に楽しむ。 ・1年生で学習した泳ぎを披露し、意欲を高める。
2学期	5歳児 4歳児	・地震、津波の際に階上に避難する方法を知る。	◎合同避難訓練	全学年	・命を守るため、地震、津波の際に階上に避難する方法を確認する。
	5歳児 4歳児	・小学生の前で自覚をもって取り組み、見てもらう喜びを味わう。	◎運動会ごっこ	1年生 2年生	・園児のがんばりを理解し、思いやりの気持ちをもって一緒に遊んで楽しさを共有する。
	5歳児 4歳児				
3学期	5歳児 4歳児		◎合同避難訓練	全学年	・阪神・淡路大震災について知り、身を守る方法を確認する。
	5歳児 4歳児		◎生活発表会予行	1年生	・園児の頑張りをを見つけ、拍手をしたり、話したりして表現する。
	5歳児		◎「わかしおそび」	1年生	・遊び方を話したり、一緒に遊んだりして思いやりの気持ちをもって関わる。
	5歳児		◎あそびの広場(小学校体験)	1年生	・新しく1年生になる友だちを歓迎し、小学校の楽しさを伝える。
	5歳児 4歳児		◎おすもう大会	1年生 2年生	・お相撲さんと触れ合い、日本の文化に触れる。
5歳児		◎ふれあい給食	1年生	・給食の配膳方法を教え、楽しく一緒に食べるようにする。	

② 保育(年少)活動と総合的な学習(6年)の学習活動をつなぐ

発表者 認定こども園大美野幼稚園 阿部 志織先生 山本麻衣子先生
堺市立野田小学校 小林 雄治先生

幼稚園では、就学前教育と小学校教育との円滑な接続の推進に重点を置き、月ごとに設定した5歳児のスタンダードカリキュラムに小学校との年間連携計画を組み入れ活動している。その中の「小学校ってこんなところだよ」「秋であそぼう」の実践において、幼稚園での保育内容と小学校の学習内容のつながりを意識して構成した交流活動の様子を紹介し、双方の学びにつなぐことができたことを発表した。

また、6年の総合的な学習の時間「みつめよう自分～夢の実現にむけて～」(目標一職業体験をしたり、働く人々の話を聞いたりすることを通して、働く意義について考え、将来に向けよりよく生きようとする一)の学習において、職業体験として、3歳児との保育体験を取り入れた。うまく保育できなかったことから課題意識が生まれ、働く幼稚園教諭の様子を見たり話を聞いたりして3歳児の実態を知り、関わり方を工夫することで2回目は互いに気持ちが通じた。こうした互いの交流の意義が達成できた実践を発表した。

【 2 実践をもとに意見交流とまとめ(グループワーク) 】

実践発表の後、幼稚園・保育所、小学校、中学校、大学関係、教育委員会、大阪支部の理事等6～7名のミックス編成の12グループに分かれ、グループ協議を行った。

2つの実践に対し、テーマにそって意見を出し合いまとめた。



グループで協議しながらまとめる参会者

【 全体発表 】

12グループの代表が協議内容を紹介し合った。

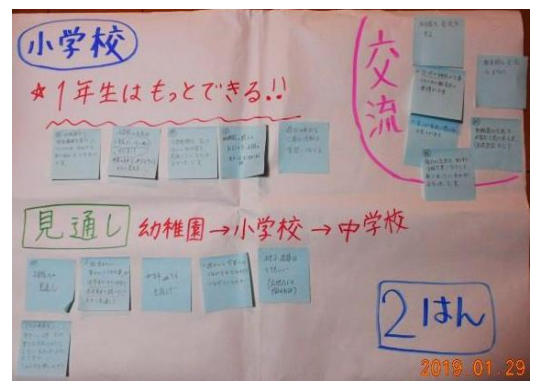
1班

幼稚園の子どもが主体的に楽しく活動しているのがよかった。生きてはたらく知識・技能、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう力、人間性の育成のために幼小両方の協力が必要。そのためにも、子ども達にとって必要な体験を見極め、合同でのカリキュラム作成が課題である。



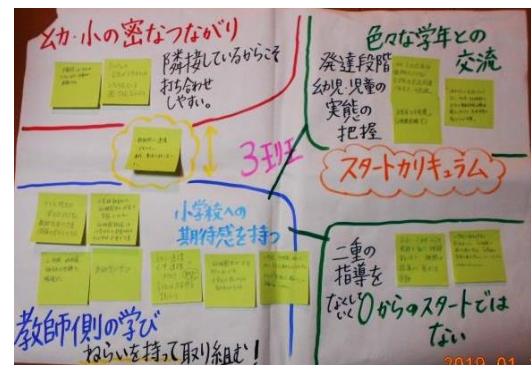
2班

「幼小連携はいいなあ、しないといけないなあ、年長がしっかりしている、1年生はもっとできるんだ」と思った。
幼→小→中と見通し、幼児期のおわりまでに育ててほしい10の姿を意識していくと、いろいろな活動ができる。交流は大切!!



3班

発達段階をしっかりと捉え、幼小相互のねらいをもって交流することが大事。色々な学年との交流が大切だが、二重指導にならないよう教師間のつながりが大切である。



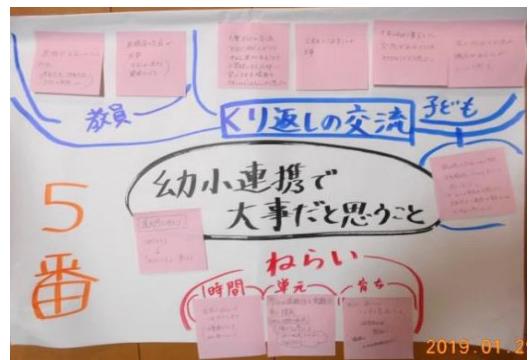
4班

失敗することからやりがいがある成功へ!!このような繰り返しの交流が自立心につながる。幼小では時間の流れは違うが、お互いをもっと知ることが大事。幼小連携のキャッチフレーズとして「もっと知ってよ!」「やっぱり体験」「やりがいがある」「成長のイメージをもって!」をあげたい。



5 班

幼小連携で大切なことは、繰り返しの交流。そのために、教師が互いのことを知ること。そして、学びの連続性を意識した単元構成で、幼小の交流のねらいをはっきり持って幼児期のおわりまでに育ててほしい10の姿を意識した活動にすること。



6 班

小1 プロブレムの幼から小への垣根をなくす意義は大きい。年間を見通した取り組みや課題に応じた必然性のある交流活動は、つながりが深まり、主体性を高め成長につながる。幼小の交流活動は、指導者が互いに子どもの育ちについての考えを共有できる場となるが、一緒にカリキュラム作りに至るまでの道のりはなかなか難しい。



7 班

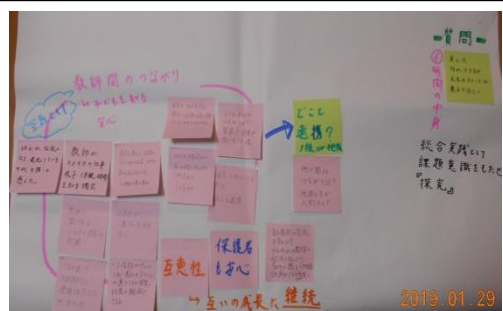
幼小の子ども同士の交流の前に先生同士の交流が大切。互いの目標、具体的な取り組み、子どもの現状をつかむことができ、より効果的な学びのある交流となる。

幼小連携は、接続期だけでなく、一人の子どもの育ちとして、長いスパンでとらえたカリキュラムの作成を!!



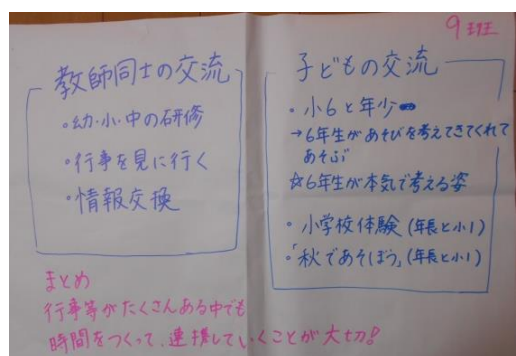
8 班

幼小の先生同士が互いの教育を知り合うことが学びのつなぎとなる。そして、幼小連携はウィンウィンの関係が大切でありそれが継続的な交流につながる。幼小連携が広がっていくようにしたい。



9 班

野田小の取り組みは中学校でも取り入れたい。
幼小交流は、互いの先生がねらいをもって交流することが大切である。また、行事がたくさんある中でも、時間をつくって連携していくことが大切である。色々な職種の先生方と交流できてよかった。



10 班

幼小連携のキーワードは、次の4つ。

- 保育から小学校へは遊びを通してつないでいく。
- 互恵性のある学びをつくる。
- 幼稚園、小学校として年間カリキュラムを作成し、1年間の中での繰り返しを大切にする。
- 教師同士が学び合う機会を大切にする。



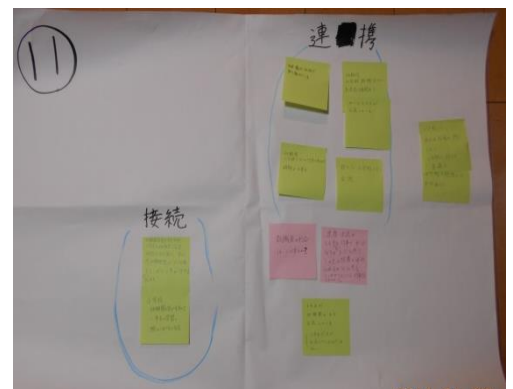
11 班

学校や園が全体で取り組んでいることや教師同士が交流し連携することが互いの学びにつながる。

入学前の交流は、園児にとって安心感や期待感を生み、スムーズな接続ができる。

他学年との交流は、どのように？

大山 T 「すべての学年との交流ありき」ではなく、幼保小双方にねらいをもって交流することを大切にしてほしい。



12 班

学びの連続性は幼小どちらにとってもメリットがある。

幼小連携の交流を取り入れるためにはカリキュラム作りが大事であるが、時間の設定が課題である。

大山 T 管理職のコーディネートがあると取り組みやすい。

連携ができなかった幼稚園や関係ができていない幼稚園があり、どうすればよいか？

大山 T 「こんないいことがあるよ」と声をあげていたり、管理職がつないだりするとよい。



【 講演 】

保育・学習活動のつながりと教師の役割を考える
～園児と児童の交流活動を手がかりにして～

講演者 岐阜県山県市立梅原小学校教頭
大山夏生先生



はじめに、2つの実践発表について、「①鶴橋幼稚園、鶴橋小学校の実践は、交流の意義をしっかりと把握しての実践で、自己の成長への気付きがある。また、学校の文化として根付いていてすばらしい。②大美野幼稚園、野田小学校の実践は、どちらにも学びがある指導への手立てが明確である。ゲームを通して楽しみながらひらがなを学ぶ活動など、学びに向かう力につながっている。」と高い評価を述べられた。今日の研修では、自分の学校(園)でどこが取り入れられそうか考えてほしいとして、講演が始まった。

○やっておきたい 幼保小連携の礎を築く

幼保小連携は双方にとって意味のある交流にする。そのためには、管理職がリーダーシップを図り教職員間の交流を充実させること。園児にも小学生にも意味・意義のある交流行事を設定すること。

○スタートカリキュラム編成・運用のポイントをつかむ

ポイント1 小学校へ入学した子どもが、これまでの生活における学びと育ちを基礎にして主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムのため、子ども達のもっている力を引き出す教師の関わりや言葉かけが重要。

ポイント2 安心できる環境作り (1日の流れがパッと見て分かる掲示の工夫、時間感覚を身に付ける工夫、仲間とすぐに話せる机の配列など!!)

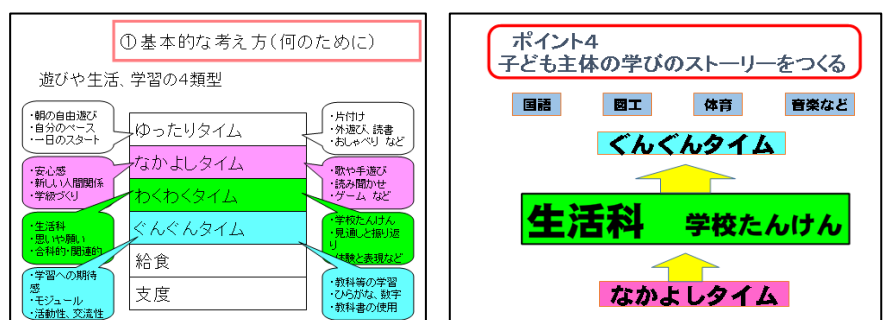
自ら見通しをもち、主体的な動きができるように支える。

ポイント3 ゆっくりタイム 一日のスタートは、自分のペースで活動。自由遊びなど「自分で選べる」ようになり、時間を創り出す感覚を身に付ける。

なかよしタイム 心をほぐし仲間と共に学びに向かうことができる活動を取り入れる。仲間との信頼関係を結ぶのに絶好の時間。

ポイント4 わくわくタイム 子ども主体の学びのストーリーをつくる。はてな?をいっぱいみつける。生活科の「学校たんけん」の学習を中核にして、国語、図工、体育、音楽など他教科へと「学びのストーリー」づくり。

ぐんぐんタイム 絵にかきたい、文字で伝えたい、みんなに知らせたい、言葉で伝えたいなどの気持ちの高まりからのびのびと表現する活動へ。



○演習(ワークショップ)からポイントをつかむ

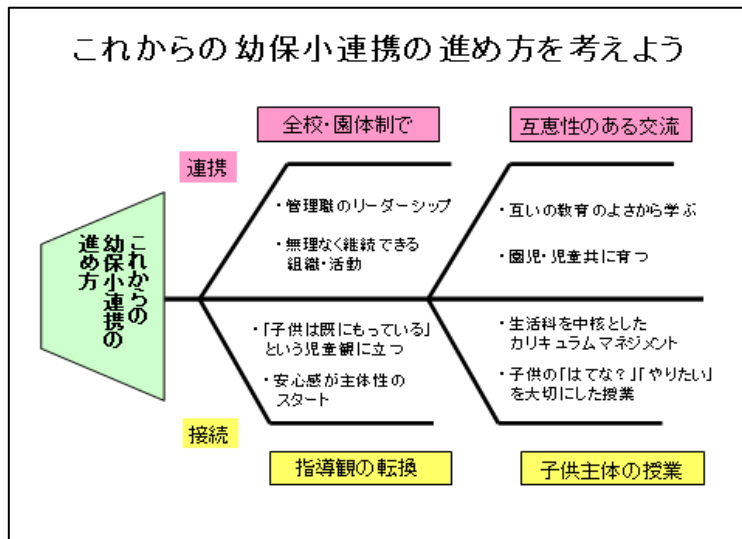
スタートカリキュラム運用の中で「幼児期の終わりまでに育てたい10の力」を探り、生かす。

「幼稚園・保育所ではどうだった?」「こんな時、どうしてた?」「これから何がしたい?」「みんなどうしたらいいと思う?」など『子どもの力を引き出す言葉かけ』によって、子どもたちは、安心してこれまでの経験や身に付けてきた力を発揮しながらのびのびと自信をもって学ぶ。

これからの幼保小連携の継続やスタートカリキュラムの改善には、管理職がリーダーシップをとり、学校全体で取り組んでいくことが大切であるとまとめられた。

最後に今日の研修をもとに、これから、幼保小連携を自分としてどのように進めていこうかを考え、各自フィッシュボーン図に整理する時間を取った。

終わりに、大山先生作成のフィッシュボーン図を示され、講演を終えられた。



【 まとめと総括 】

関西福祉科学大学 香田健治先生



本日の実践発表、グループワーク、全体発表、講演について、子ども観の転換や指導観の転換、体験重視、教師の関わりの重要性など内容全体を総合してまとめ、分かりやすく総括してくださった。また、今後も、3つのワーク(チームワーク・ネットワーク・フットワーク)を大切に、先生方のつながりをさらに深め、幼保小中での子どもの学びや育ちを充実して頂きたいとまとめられた。

参加者のアンケートより

今日のセミナーでは、就学前教育と小学校の連携の大切さについて改めて考えることができました。大山先生のスタートカリキュラムについてのお話を聞き、就学前教育で学び、様々な力が身に付いた子ども達のありのままの姿で小学校に進学できることの安心感の大きさを痛感しました。今、年長の子どもの担任をしているので、ついつい「もうすぐ小学生なんだから!」と口にしてはいますが、期待をもたせると同時に不安を与えてしまっているのではと反省しています。「そのままのみんなでいいんだよ」と安心感、自信をもたせてやらなければなと思いました。今日はありがとうございました。

(大阪市 K. M)

初めて参加させていただきましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。中でも大山先生のお話は幼児教育に携わる者としては感動できるものでした。幼児期の教育は、幼児の主体性を大切にしています。指示して動くのではなく、自分で考えて行動する経験を積み重ねた子ども達が、とすると小学校へ行ったとたん指示待ちになってしまう姿をととても残念に思っていました。先生のおっしゃる「指導観の転換」は心から共感できるものです。

あの4つの言葉かけ、是非、本市の小学校の先生方に広めていきたいと思います。子どもの思いや願いを中心に据えたスタートカリキュラムの大切さを改めて感じました。本当にありがとうございました。

(堺市 H. K)

具体的な取り組みの発表を聞かせていただき、また、それについて、いろいろな校種の先生方と討議させていただくことで、大切なポイントを確認することができました。幼小連携していくことの互恵性が分かっているながら、様々な条件で進めていけないもどかしさがあります。幼小お互いの管理職がリーダーシップを発揮していくことが一番大切であることを実感しています。まずは幼小お互いの保育、授業を見合う、ここからでも進めていきたい。

いろいろな学びになりました。ありがとうございました。

(大阪市 A. R)

幼小連携の実践発表から、双方の育ち、学び合いを強く感じました。幼稚園と小学校、この違いを子ども達がスムーズに歩んでいくために、教師の子どもを理解する力、環境を構成する力 etc が必要であると再確認できました。

大山先生のスタートカリキュラムのお話を聞いて、自分は今までなんとなくやっていたのだと思いました。スタートカリキュラムによって安心して学びをつなげていくことが子どもの育ちを左右するのだと再認識しました。スタートカリキュラム、そして生活科について、もっと私自身勉強しないといけないと思いました。グループワークで他市の先生と交流できたこともよかったです(堺市 O. A)

普段、小学校の先生の話や交流することがあまりないので、いろいろな学びがありました。「1年生はもっとできる」と言ってくださり、気付いて頂いて嬉しく思いました。子ども達にあそびを通して日々いろいろな力をつけています。子ども園では保育期間の長い子は6年間在籍しています。小さいころからの育ちや学びを、小学校の先生が理解していただけることはとても大切なことと思います。また、就学前教育にいる職員も、1年生だけでなく、それ以降の育ちまでしっかり見通し学んでいくことが必要だと思いました。

(堺市 S. M)

2実践、講演、とても勉強になりました。日々の忙しさの中、なかなか交流するのも厳しい状況ですが、子ども達が体験するからこそ深い学びにつながるキーワードを自ら見つけ、成長していく姿が見れるのは本当にすごいことだと感じています。特に大規模校では、学年団での共通理解や計画、日程調整など、一緒に取り組んでいくこと自体がまず大変なことだと思います。学校全体で理解し、同じ視点で子ども達の成長を考えて取り組む素晴らしさを改めて感じました。貴重な報告、グループワーク、講演、ほんとうにありがとうございました。(無記名)

わたしは就学前の子どもを保育する立場なので小学校の先生たちが、就学前の子どもについて、また、教育要領などを知っていただき、生かしていってくれるということにとっても安心感を覚えます。逆にどのようにスムーズに小学校入学へとつなげていけるかというのは、常に課題になってくるので、見直して保育につなげていきたいです。10領域についても、自分の立場からだけでなく、最終的にどのように育ててもらいたいのかをしっかりとイメージし、小中学校の学習指導要領を知ることも大切だと思いました。(堺市 Y. M)

今日のセミナーで、幼稚園や保育所の子ども達も今までに学んできた力をもっているんだということが分かりました。そこから、私たち教員に求められることは、子ども達も持っている力を引き出すような言葉がけが大切だということが感じられました。そして、交流や連携でしっかり考えていかなければならないことは、子どもの学びにつなげていくためには、ねらいとどんな子どもになってほしいのか、そして、体験や活動をした後での振り返りをする事で次につなげていく思考にかわっていくのではないかと考えます。本日の実践発表や大山先生の話から得たことを生かして、今後の活動を考えていきたいと思えます。ありがとうございました。(和泉市 Y. K)

実践報告で、小学校、幼稚園、認定こども園、それぞれからお聞きして、具体的な取り組みやその成果、課題などとても学びとなった。グループワークの意見交流も、いろいろな面から意見が聞けて楽しかった。それを模造紙にまとめながら考えていく時間は有意義だった。全体発表も和気あいあいの中ですすみ、いろいろな意見や考え方、発見、気があった。大山先生のお話がとても具体的で共感できるものであった。幼児期での生活をしっかりと理解し、そのうえで遊びから学び(学習)へ子どもが安心感をもって移行していることにある種の感動とそこへ視点を向けての取り組みに大きな学びがあった。今日のセミナーの流れがとてもよかったです。たくさんの学びがあり、有意義な時間をすごすことができました。自分の立場でできることを一つ一つ取り組んでいきたいと思えます。(大阪市 K. K)

◎実践発表、グループ協議、全体発表、講演などを通し、幼保小連携・接続の大切さを再認識すると共に、そのあり方のポイントについても学ぶことができた。今回の生活科・総合的学習教育セミナーの内容は、今後の幼保小連携を進めていく中で大いに参考になったと思われる。これからも多くの参加者と研修を深め合い、生活科・総合的学習の指導が充実したものになるような研修会を計画・実施していきたいと考える。